

第3回 高知県史編さん委員会

日時：令和6年7月24日（水）

13時30分～15時00分

場所：高知県庁本庁舎2階 第2応接室

出席委員：濱田委員長、藤井副委員長（監修者）、竹内委員、宅間委員、長岡(辰)委員、宇佐美委員、笹岡委員、長岡(幹)委員、井上委員、渡部委員、羽賀委員、大門委員、鋤柄委員、常光委員、岡本委員

事務局：池上部長、三木副部長、中内課長、山崎企画監、土居課長補佐、目良チーフ、松本主幹、紀ノ國主幹、小林主事、宮崎主事、坂本専門員

配布資料：委員名簿

配席図

【資料1】高知県史編さん事業概要

【資料1-2】『高知県史』編さん事業 令和5年度実績表

【資料1-3】『高知県史』編さん事業 令和6年度計画表

【資料2】高知県史の掲載内容に関する主なご要望

【資料3】各専門部会の活動報告

【資料4】県史編さん室事務局 活動報告

【参考資料1】高知県史編さん基本方針

【参考資料2】高知県史編さん委員会設置要綱

【参考資料3】高知県史の編さん計画

【参考資料4】各専門部会の編集方針

【参考資料5】第2回高知県史編さん委員会 議事概要

1 開会

今年度より新たに着任された委員の方々の紹介

2 委員長（高知県知事）挨拶

濱田委員長より開会挨拶

- ・専門部会が6つ立ち上がり、日々精力的に作業を進めていただいている。
- ・県史の編さん計画も第1期が令和3年度より始まり令和7年度までのため、残り2年となった。初刊の発行に向けて作業をしていただく必要があるため、進捗管理をしながら進めていただきたい。
- ・20年の長い全体を見通しながら、5年ごとの計画の中で成果を県民の皆様にご覧いただけるだけ早く、わかりやすくお届けをすることを念頭に尽力いただきたい。
- ・県史の調査活動で集まったデータは県民の共有財産であるため、見やすく、分かりやすい形で県民に提供できるよう尽力していただきたい。

3 副委員長（高知県史監修者）挨拶

藤井副委員長より挨拶

- ・第一巻の発刊に向けて残された時間はそれほどないが、各部会が積極的に調査を進めており、着実かつ熱心に取り組んでいただいている。
- ・委員の皆様から意見を出していただき、今後の編さんに活かしていきたい。

4 協議・報告事項

事務局説明

(1) 高知県史の編さん体制について

(2) 高知県史の掲載内容に関するご要望について

協議時間の都合上、(1) から (2) までの議題を事務局より一括説明。

資料1～2にて、事務局より説明を行う。

- ・R6年度までに全6部会の設置を完了。

【R5年度実績】

・令和7年度までの第一期期間における部会の運営や資料調査・編集の方針を定めた計画は全ての部会で策定済。

・歴史資料調査について多くの部会で概ね計画通りで進んでいる。なお、民俗部会は資料編第一巻のテーマを「民謡」に変更した結果、新たな調査が必要となったため、少し遅れが生じている。

・広報啓発として、文化広報誌「とさぶし」に調査風景等を掲載。また近世部会と現代部会においてそれぞれ報告会を実施。

【R6年度予定】

- ・R6年度中に全ての設置済み部会について編集方針を策定する予定。

・新たに考古部会の「山城遺跡測量調査委託」や近世・近代部会では選別された資料を活字化する作業を行っていく。

各委員質疑なし

(3) 各専門部会の調査活動について

資料3について各専門部会長（古代・中世、近世、近代、現代、考古、民俗）より説明。各部会による活動報告と今後の展開について報告。

(古代・中世部会)

・旧県史へ収載されている土佐国蠹簡集以下の近世期に編さんされた収集史料を中心に地域別、家別に史料の再編成を行ったり、現状、点在している古文書を突き合わせて調査をし、校正を進めている。

・高知県は近世の段階で史料が非常に整備されており、それを母体に残っているものやそこから漏れているものを網羅的に集めていこうとしている。

・調査は県内の公的な機関で既に収蔵されているものを中心に調査を進めている。また、県外に所在する史料についても令和6年3月に埼玉で調査を行っている。また、令和6年9月も同様に県外史料の調査を予定している。

・デジタルカラーデータ(写真)を委員が内容確認しながら収集している。

・令和10年度、資料編第1巻発刊に向けて、来年中までには旧県史に記載されている史料のチェックを完了し、その後収集する史料を確認し、進めていく予定である。

(近世部会)

・8人委員+維新班(近代部会と協力)で調査活動を実施。

・平尾文庫、五藤家文書、加賀野井家文書といった武家文書の調査を進めている。

・近代部会と共に設置した維新班が山内家にある近代史料調査を行った。

・令和5年9月には高知大元学長故関田英里氏収集史料の調査に入り、多彩な史料1,300点の調査・撮影を令和5年度内に完了した。

・12月には宿毛市立宿毛歴史館にて伊賀家古文書の調査を実施し、目録作成や一部撮影等を実施した。

・令和6年3月には大豊町の三谷家文書に着手し史料が約3,500点のうち、半分程度完了した。

・新しい史料がたくさん見つかり、内容的にも新たな知見が満載で、初巻の刊行に向けた史料が充実してきた。

・その他、調査以外にも2回報告会を開催したり、大学院生や県内大学生に調査に参加していただくことで人材育成を進めている。

・今年度から古文書解説講座を始める。若い世代が県史編さんによって育っている。

・資料編第1巻の発刊が近づいているため、令和6年度中には編集作業を開始し、令和7年度には翻刻の完了、令和8年度には入稿・校正を行い、末に刊行予定。

(近代部会)

・近代部会を計4回開催し、部会の活動方針や刊行計画、資料調査の方法等の確認を行った。

・近代部会合同調査を2回実施し、令和5年9月の調査では主に安芸市立図書館所蔵の「安芸市旧役場文書」「安芸市戸長役場文書」併せて高知市立自由民権記念館所蔵の「細川家資料」「竹村家資料」について調査・撮影を行った。また、令和6年3月の調査でも引き続き安芸市の資料を調査し、膨大な資料数であったがほぼ調査を完了した。(撮影画像約5万コマ)

・その他各委員たちには県内外において個別調査を行ってもらっており、それらの結果については、クラウドで情報共有している。

・また令和6年1月には徳島県及び愛媛県の文書館や図書館等に訪問調査を実施し、高知県が土佐国及び阿波国を管轄していた合県時代の文書等を閲覧し、また撮影をする予定である。

- ・近代編編集のための基盤資料を整備するための作業として、「戦前期高知県関係法令目録」や「戦前期高知県職員録」の作成を続けている。
- ・実際の調査をこれからも行っていくために資料保存状況の調査を、県史編さん室と協力して須崎市や室戸市等に対して行っており、今後の合同調査の整備を行っている。
- ・また、令和9年度刊行予定資料編第2巻の内容構成案について検討しており、直近の近代部会において仮構成案の策定、7部構成それぞれの主要項目・小項目の検討、担当委員の内定等を行った。
- ・令和6年度の活動予定は主に近代部会の開催(4回)、合同調査(2回)、第2巻の構成案の策定や第2巻への掲載資料等の翻刻作業などが挙げられる。

(現代部会)

- ・昨年度より開始し、R5.8、R6.3に県西部にて合同調査を実施。聞き取り調査と資料調査を組み合わせたフィールドワークを行っており、市町村や駐在保健婦、民間の教育施設等くらしを支える多様な担い手の役割が見えてきた。この中で「くらし」というものに視点を合わせることで高知県の現代を考えるうえで大事ではないかと、現代部会共通の認識にいたった。令和6年度は県東部にて実施予定である。
- ・高知県では戦前戦後にわたり、海外への移民が盛んであったが、戦後は国内移動「移住」も盛んとなり、主な地域としては関西地域と神奈川県三浦半島が挙げられる。一例として、大阪府守口市に四国銀行が支店を置いているが、これは東洋町からの移住と関係している。高知県の「現代」の特徴として資料編への掲載を予定している。
- ・資料編3冊の構成について協議を重ねており、第1部は共通して高知県全体の「くらし」に関する資料、第2部は各地域の資料を掲載予定である。

(考古部会)

- ・現状把握を行うため、包蔵地遺跡データベースを利用して、全体像の基盤情報整理を行ったところ、遺跡合計数が約2,600ヶ所となった。時代ごとにどのように掲載をするかの資料編掲載予定遺跡数の算出を行った。
- ・考古部会の編集編さんコンセプトを設定し、それに基づき編集・編さんを進めていく。また、資料編はこれまでの調査と研究成果を総括することで、現時点での価値づけにより地域の貴重な社会資源であることを明示することを基本とする。通史編は発掘調査等によって得られる新たな知見や、資料編の資料を統合した解釈による、新たな高知県史の叙述という考え方で進めている。
- ・歴史民俗資料館の今年度の企画展との連携が決まっている。県民に県史の活動を知っていただく機会になる。
- ・赤色立体地図のような臨場感を県民に感じて頂ける、デジタルコンテンツの作成と活用を進めていく予定である。
- ・今年度は現状把握をふまえた掲載予定遺跡のしぼりこみを順次進めている。
- ・来年度以降は今年度の資料編掲載予定遺跡数の算出を基に、図化・編集を行う予定である。

る。

(民俗部会)

・前回の編さん委員会以降、計3回の民俗部会を開催した。当部会では各委員が担当するテーマと分野について基本的に個人調査。また、令和5年10月から梶原町にて津野山神楽、地名・伝説、四万十川上流地域の漁業等について合同調査を実施した。特に伊予との交流等について貴重な聞き書き調査ができた。

・民具調査も中土佐町にて継続して行っており、令和6年3月の調査にて約800点の民具について撮影とリスト作成が完了した。高知県各地に相当数の民具資料が収集されているため今後の調査について具体的に検討する必要がある。

・民俗資料編Iでは「民話」「民謡」「地名」について扱う予定である。「民話」は文献のリスト化作業を行い、55冊のうち、31冊が作業完了した。「民謡」は開始は遅れたものの順調に作業を進めている。「地名」についても精力的に調査を進めており、現在116,413のデータを収集している。

・令和6年の秋には合同調査を新たに高知県東部(東洋町)で行う予定である。

各委員質疑なし

(4) 広報活動・人材育成について

資料4にて、事務局説明。

・令和5年度までに県内34市町村全て訪問し、歴史資料の残存状況を調査し終えた。その中で、新たな資料情報を把握し、各専門部会の詳細な調査につながった。一方で、合併を経た旧市町村単位での資料情報が把握しきれないことや、前回の高知県史で把握した資料のうち、現時点で所在不明も多いことが課題として挙げられる。そのため、各市町村への追加調査を行い、改めて確認を行っている。

・事務局の調査ではデジタルデータで収集する方針をとっており、膨大な資料を効率的かつ安全に管理するために、クラウドサービスを整備し、活用している。

・文化広報誌「とさぶし」を今年度も年4回の発行を計画している。また新たなSNSを活用した情報発信の強化も予定している。

・資料調査や部会の活動等の紹介を分かりやすく行う小冊子を令和7年3月に発刊予定。

・「歴史資料調査隊」養成講座を昨年度は2度開催(動画撮影及び聞き書き編・撮影編)し、合計17名が修了した。また今年度は撮影編に加え、新たに史料解説編も開催している。

・地元高校生の体験見学会を開催し、14人の生徒が参加した。文書の取扱い方法を学び、歴史資料の撮影等を体験していただいた。参加していただいた高校生からは好評価を受けており、今年度以降もより多くの生徒に参加していただき、本県の歴史に興味を持っていただきたい。

各委員質疑なし

6 閉会

(藤井副委員長コメント)

- ・各部会の状況や事務局の活動等を詳しくご紹介いただいたが、課題がある。
- ・資料編第1巻の刊行が近づいているものの、高知県史の背表紙等が検討中のため、他県の事例等も参考にしながら各部会からの提案に応じて、決定する必要がある。
- ・現時点では、人材育成について積極的に取り組んでいただいている。しかし、本の編集が始まると事務局の手が回らなくなる可能性があるため、今後調整をする必要があると考えられる。
- ・各部会が調査や調査対象等、相互に協力をし、互いに補い合いながら活動を行う必要があるが、今年度からはその動きが少しずつみられるため、今後も期待される。
- ・県史編さんのために集めた資料の利用方法について今後の課題であり、県史編さんを目的とした収集史料を学会発表等県史編さん以外で利用してよいかを検討する必要がある。

(濱田委員長コメント)

- ・熱心な協議に感謝。各専門部会で精力的に調査を進め、成果物のイメージを確認しながら、作業を進めていただいている。
- ・若い世代の参加についても大変ありがたい。
- ・委員から質問や意見がなかったが、具体的な事象やイメージがあれば、もう少し活発な議論となるかと思う。そのため、感想等提示がしやすいような組み立ての工夫をする必要がある。例えば、災害史について取り上げていただきたいという声が多く、各部会を通じて(皆が議論しやすい)災害史をテーマとしてとりあげる等、横断的に紹介ができればもう作業の進捗等を少しでも理解していただけるのではと考える。
- ・調査の成果が教育や観光等に活用できることが、成果のイメージの一つとして挙げられるため、地域の歴史の裏付けなど語りにつなげることもよい材料になると考えられる。教育の面でも、地域のアイデンティティにつながるようなトピックを子供たちに提供できるものと考ええる。
- ・現代部会の、大阪との地域間交流については、自分も関心を持って聞いた。こうした具体的な事象を織り交ぜながら報告いただくと委員側も意見や注文が出てきやすい。
- ・成果をいただいて、我々が社会生活の中で活かしていけるところとの接点を具体的にしながら活性化した議論をしていきたい。

(以上)